TTC ゆった～り山行実施記録表　2017 年 10 月 06 日　報告者:　Y.M　(1/2)

選ばれている	**乗鞍岳位ヶ原紅葉トレッキング**　[肩ノ小屋登山口 2614m･位ヶ原山荘 2350m/長野県]
実施日	平成 29 年 9 月 30 日(土)～10 月 01 日(日) 1 泊 2 日　ハイエース利用
天候／参加人員	天候:晴れ　レベル:★☆　参加者:申込 8 名/実施 8 名(男 2 名／女 6 名)
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	CL/計画　、SL:　、会計　、救護:　、写真:
参加メンバ	省略
費用 **一人;26,650 円** ｶﾝﾊﾟ金 224 円	**26，650円(交通費￥15,372+宿泊費￥10,725+通信費･雑費･ｶﾝﾊﾟ金等¥553)** **交通費**　ﾊｲｴｰｽﾚﾝﾀﾙ料金(@16,848x2 日)￥33,696、燃料代(@100x{(250x2)+50}/5)￥11，000、高速料金(@4,840x2)¥9,680、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ謝礼(@18,000x2+宿泊加算 2,000)¥38,000、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ宿泊費:¥10,600/**ﾊｲｴｰｽによる往復交通費計**:¥102,976/8 人⇒**一人当たり交通費¥12,872**、乗鞍岳ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ往復料**金@2,500**x8 人＝ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ代計¥20,000／**一人当たり交通費合計@15,372**、**宿泊代(入湯税等込み)@10,725**x8 人＝ﾒﾝﾊﾞ宿泊代計￥85,800、**雑費**:通信費￥1000+ﾗｰﾒﾝ･ｺｰﾋｰ具材購入費･ｶﾞｽﾎﾞﾝﾍﾞ代¥3,200)計¥4,200/8 人＝**一人当り@525** **集金(26,650x8)¥213,200-費用合計￥212,976＝残金(ｶﾝﾊﾟ金)￥224**

所要時間 *当初計画より短縮		9/30(土) 乗鞍高原滝巡りハイキング			10/01(日) 乗鞍岳位ヶ原紅葉トレッキング*+番所大滝立寄り		
		歩行時間	休憩時間	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間
	ガイドブック	2:10			(3:20)1:50*		
	計画	2:10	0:35	1::45	4:20*	1:10*	5:30*
	実行	**2:30**	**1:10**	**3:40**	**1:54+0:13**	**0:58+0:05**	**2:52+0:18**

コースタイム

◆9/30(土)　天候:晴/気温～13℃　乗鞍三滝探勝ハイキング(行動時間　3:40　／歩行数～13,500 歩)

ハイエース　0:24

本厚木旧ﾖｰｶﾄﾞｰ前＝(荻野新宿･鳶尾山口経由)＝＝相模湖 IC＝＝談合坂 SA＝＝諏訪湖 SA＝＝松本 IC＝＝乗鞍三本滝P——

6:15　6:27　6:31　7:10　7:31/7:40　9:04/9:18　9:38　10:52/11:11

(昼食)　0:28　ハイエース　0:07　0:15　0:20　0:05　0:13　0:22

——三本滝——三本滝 P＝＝休暇村乗鞍高原———牛留池——休暇村——善五郎滝——展望台分岐——一之瀬分岐——

11:35/12:20　12:48/12:59　13:10/13:13　13:20/13:25　13:40　14:00/14:05　14:10/14:15　14:28

0:16

——観光ｾﾝﾀｰ——旅館「仙山乗鞍」(泊)

14:50/15:03　15:19 着

◆10/01(日)　天候:終日晴/気温～15℃　位ヶ原紅葉トレッキング(行動時間～3:10／歩行数～8,000 歩)

朝食 6:50～ﾊｲｴｰｽ　ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ　(ﾄｲﾚ)　0:37　0:07　0:50(ﾗｰﾒﾝﾊﾟｰﾃｨ)　0:20

仙山乗鞍＝＝観光ｾﾝﾀｰ＝＝大雪渓/肩ノ小屋口ﾊﾞｽ停——宝徳霊神ﾊﾞｽ停——ﾊﾞｽ停下河原——位ヶ原山荘上——位ヶ原山荘

7:40　7:45/8:00　8:50/9:18　9：55　10:02/10:10　11:00/11:50　12:10/12:47

ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ　(乗換)ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ　ﾊｲｴｰｽ　0:06　0:08　(ﾐﾔｷﾞ購入)　(休憩)

＝＝＝畳平＝＝観光ｾﾝﾀｰ＝＝番所大滝P——番所大滝——番所大滝P＝＝新島々観光ｾﾝﾀ＝松本 IC＝＝諏訪湖SA＝＝

13:03/13:12　14:18/14:26　14:34/14:35　14:41/14:45　14:53/14:55　15:35/15:51　16:17　16:40/16:55

大月から小仏峠まで 30km 渋滞

＝談合坂SA＝＝相模湖 IC＝＝(鳶尾入口･荻野新宿経由)＝＝本厚木旧ﾖｰｶﾄﾞｰ前

19:18/19:55　20:25　21:25 着

コースの概要、特記事項、反省事項等

乗鞍岳は知る人ぞ知る北アルプス有数の紅葉の名所。北アルプスの紅葉の名所と言えば、真紅に染まるナナカマドの紅葉が美しい穂高岳涸沢や裏剣等が有名だ。いっぽう、乗鞍岳の紅葉は乗鞍岳の雄大な東斜面の標高 2500～2000m 付近のダケカンバが一斉に黄色一色に染まり、2600～2300m 付近の山腹はハイマツの緑の中に、真っ赤に色づいたナナカマドが見事なコントラストを成して、多彩な紅葉の景色を見せる。乗鞍岳の紅葉の最盛期は、9 月最終の 5 日間程度で、通常,10 月に入って最低気温が零下になると、ダケカンバは落葉し、ナナカマドの葉は茶色に縮れて、紅葉が終わる。大半のシニアメンバは乗鞍岳頂上に何度も登っているので、今回は頂上を割愛して、標高 2600m の肩の小屋登山口から、紅葉を愛でながら位ヶ原･冷泉小屋に下る 9/30-10/01 の 1 泊行程で計画した。

◆9/30(土)：秋晴れの中、Iﾄﾞﾗｲﾊﾞ運転のﾊｲｴｰｽに8名(ｼﾆｱ6,一般1,ﾋﾞｼﾞﾀ1)が乗車して本厚木を6:15amに出発。相模湖ICから中央道松本ICまで走り、R158号線を上高地方面に向かい、前川渡を左折して乗鞍高原中心部を通過し、標高1820mの三本滝ﾄﾞﾗｲﾌﾞｲﾝ前駐車場に約4時間半を要して11:00am前に到着。広い駐車場には沢山の車と、これから自転車で畳平まで登るというｻｲｸﾘﾝｸﾞ愛好者が大勢休憩していた。

ｽﾄﾚｯﾁ体操を済ませ、約900m先にある乗鞍三滝の第一「三本滝」まで、片道約25分の森林浴ﾊｲｷﾝｸﾞ。三本滝は小大野川の3本の本支流が1箇所で、落差50～60mの3本の滝となって合流するという珍しい滝で、日本の滝百選の名瀑。水量豊富な「右側の滝」、赤い岩壁を一気に流れ落ちる「正面の滝」、やや高い位置から絹糸を引くように優雅に流れ落ちる「左側の滝」を写真に収めてから、滝下の木漏れ日が射す河原でﾗﾝﾁを摂り、紅葉が始まった広葉樹林の緩い上り坂を歩いて、駐車場に戻った。ﾊｲｴｰｽで休暇村「乗鞍高原」まで戻り、ここから牛留池を経由して、乗鞍三滝の第2「善五郎の滝」に立寄り、「乗鞍観光ｾﾝﾀｰ」まで約2時間の森林浴ﾊｲｷﾝｸﾞ。牛留池は小さな池であるが、水面に乗鞍連峰の姿が逆さまに映る有名なﾋﾞｭｰﾎﾟｲﾝﾄ。標高1500mにある落差22m/幅8mを流れ落ちる善五郎滝は、水量豊富で、観瀑台に立つと水しぶきとﾏｲﾅｽｲｵﾝを浴びて、たちまち全身ずぶ濡れだ。

乗鞍観光ｾﾝﾀ内のｱﾙﾋﾟｺﾊﾞｽ営業所に立寄り、明日乗鞍岳に向かうｼｬﾄﾙﾊﾞｽの時刻と混雑状況や冷泉小屋ﾊﾞｽ停から途中乗車が可能かどうか等の情報を収集した。9/30(土)の本日、乗鞍高原からｼｬﾄﾙﾊﾞｽに乗車して乗鞍岳に向かった登山者は、今秋最高の約1200人にのぼり、午後の下り便では、途中停留所からは、満席で乗車できない客が続出したとのこと。明日も同様の混雑が予想されるので、ﾊﾞｽ会社の整理員がｺﾝﾄﾛｰﾙしている「位ヶ原山荘前」ﾊﾞｽ停を利用するか、上り便で終点の畳平に行き、ここで始発の下り便に乗り換えるようｱﾄﾞﾊﾞｲｽを受けた。

ここから至近の距離にあり、観光案内所で紹介してもらって予約してあった旅館「仙山乗鞍」に早めの宿入。宿は少々古いが、夕食は、飛騨牛のｼｬﾌﾞｼｬﾌﾞ、岩魚の塩焼き、信州ｻｰﾓﾝのお造、天ぷら、松茸の吸い物等が並び、全員満腹・満足。温泉はﾅﾄﾘｳﾑ・ｶﾙｼｳﾑ・塩化物・硫酸塩泉の少し温めの源泉掛け流しの濁り湯。内湯と露天風呂に、夕・夜・朝と合わせて6回も入浴した女性ﾒﾝﾊﾞもいたようだ。

◆10/01(木)：8:00AM発のｼｬﾄﾙﾊﾞｽに乗るべく、15分前にﾊﾞｽｾﾝﾀｰに。雲一つない秋晴れの空に3つの山塊に分れて朝日に輝く乗鞍岳の姿が見事に美しい。窓口で三本滝～畳平間乗り降り自由の往復乗車券(@2500)を購入。ﾊﾞｽ停に並んだ大勢の登山者を山頂方面に運ぶべく5台の大型ﾊﾞｽが連なって乗鞍ｴｺｰﾗｲﾝを登ると、標高2100mの冷泉小屋付近から見事な紅葉が始まり、標高2350mの位ヶ原山荘から2614mの肩の小屋登山口にかけて、ﾅﾅｶﾏﾄﾞが真っ赤に色づき、正に紅葉真っ盛り。ただし、今秋最低気温が零下の日が3日ほど続いたため、すでにﾅﾅｶﾏﾄﾞの葉先が縮れてしまっている樹も散見された。昨秋は氷雨に打たれて10/3には、ﾀﾞｹｶﾝﾊﾞの葉はすべて落ちてしまっていた。乗鞍岳の紅葉を楽しむのであれば、やはり10月にならない9月末の方が間違いないようだ。

ﾊﾞｽの車窓から紅葉と大展望を堪能しながらのﾄﾞﾗｲﾌﾞを楽しんだ後、大勢の登山者であふれかえる大雪渓・肩の小屋登山口ﾊﾞｽ停で下車した。緑のﾊｲﾏﾂと真っ赤なﾅﾅｶﾏﾄﾞの中に続く登山道を肩ノ小屋に向かう大勢の登山者の列。朝日岳から主峰剣ヶ峰の急峻な東斜面に残る大雪渓は、あと10日もすれば新雪に覆われる今日でも、長さ約50m幅約200mの雪田を残し、わずかばかりの雪面でスキーを楽しむ姿が見られた。乗鞍岳山塊の北に延びる標高2500m級の硫黄岳から十石山への長大な尾根の南東斜面の標高2500m～2000m付近までの山肌は、一斉に色づいたﾀﾞｹｶﾝﾊﾞの黄葉に覆われ、実に壮大で美しい。これが乗鞍岳の紅葉の景観の特徴であろうか。黄色に染まった尾根の右側には槍の穂と岳沢を抱いた西穂・奥穂・前穂高岳、右に常念岳・蝶ヶ岳、霞沢岳、更に、根子岳・四阿山、浅間山、美ヶ原から霧ヶ峰と続き、蓼科山から天狗岳・硫黄岳・横岳・赤岳・権現岳・編笠山と続く八ヶ岳連峰、甲斐駒から鳳凰三山、仙丈ヶ岳、北岳・間ノ岳・農鳥岳・塩見岳・悪沢岳・荒川岳・赤石岳と南ｱﾙﾌﾟｽが続いたあと、中央ｱﾙﾌﾟｽが乗鞍岳高天原の山稜で途切れるまで続く山脈を眺め、全員で山座同定を楽しんだあと、標高差約300mの位ヶ原山荘に向けて下山を開始した。無風・快晴で気温は～15℃と予想外に暖かく、着込んだｳｪｱを1枚脱ぐほどだった。

緑のﾊｲﾏﾂと真っ赤に色づいたﾅﾅｶﾏﾄﾞの低木林の中に続く、岩場の急峻な登山道を、足場を慎重に選びながら、正面に間近に聳える槍ヶ岳と穂高岳を望み、紅葉が見事な場所では足を止め、見事な紅葉の景色に感嘆し、紅葉の景色を写真に収めるのに忙しい。この辺りは盛夏であればお花畑が広がる場所で、まだ穂を残し、葉を真っ赤に染めたﾁﾝｸﾞﾙﾏもしきりに存在を誇示している。山岳信仰の旧跡「宝徳霊神」の古い石像を右手に見てｴｺｰﾗﾝｲﾝの道路を横断。更に登山道を下ると、展望抜群の粘土質の斜面に出る。ここから眺めるﾀﾞｹｶﾝﾊﾞの黄葉は見事の一語に尽きる。屋根板の坂と呼ばれる急坂を下ってﾀﾞｹｶﾝﾊﾞの疎林に入った辺りで、少し広い場所を見つけ、用意してきた食材を取り出し、3台のｺﾝﾛと鍋で、手際よく餅入りﾗｰﾒﾝを作ってﾗﾝﾁﾊﾟｰﾃｨを楽しみ、淹れ立ての食後のｺｰﾋを美味しくいただいた。

位ヶ原山荘に到着すると、下りﾊﾞｽ停にはすでに、20～30人のﾊﾞｽ待ち行列で、みるみる行列が伸びて行く。ﾊﾞｽ会社の係員に尋ねると、これだけ途中乗車する乗客がいると、全員確実に乗車できる保証はできないという。そこで我々は、乗れないﾘｽｸを避け、確実に乗鞍高原に戻れる方法として、上りのﾊﾞｽで終点の畳平に向かい、ここで下りﾊﾞｽに乗り換える方法を採ることにした。混雑で上りﾊﾞｽが遅れたため、畳平で観光する時間がなく、とんぼ返りになってしまったのが少々残念だったが、ｴｺｰﾗｲﾝを何度もﾊﾞｽで行き来して、車窓から乗鞍岳の紅葉を存分に堪能して、得した気分になった。帰路、乗鞍三滝のもう一つの見残した滝「番所大滝」に立ち寄ってから帰途についた。大月JCTから渋滞が始まり(小仏ﾄﾝﾈﾙから30km渋滞)、帰路は6時間半を要し、9:25pmに本厚木に帰着。紅葉を存分に堪能できた山旅だった。